

救急隊が活動する

名古屋市南消防署さんにお伺いしました

山口病院と同様、24時間365日救急出動に備える名古屋市南消防署さんに、救急隊の活動などについてお話しいただきました。



—南区では毎月何台くらい救急車が出動しますか。また、他のエリアと比べて南区の特徴があれば教えてください。

「南消防署本署」の南救急隊と「大同出張所」の大同救急隊が活動しており、1台ずつ救急車を持っています。昨年1年間の救急出動は、南救急隊が3,482件、大同救急隊は2,662件でした。南区の合計は7,801件で、1日平均21件、1時間に1件出動していることとなります。

名古屋市内には39の救急隊があり、救急出動の合計は117,695件、1日平均322件です。南区と他の行政区との特徴に大きな違いはありませんが、南救急隊の出動件数は39の救急隊のなかで第7位と比較的多い地域といえます。大同救急隊は第31位でした。

—主にどのような症例が多いのでしょうか。

南区の出動のうち、65歳以上の高齢者の搬送は4,263人で全体の60.2%を占め、高齢者の割合が多くを占めています。事故種別にみると、急病(腹痛や頭痛など)、一般負傷(転倒や打撲など)、交通事故の順に多くなっています。



—最近の傾向があれば教えてください。

新聞やマスコミなどでもよく取り上げられていますが、夏季は熱中症、冬季は降雪による事故によって、非常に多くの搬送があります。夏季の屋外での活動は水分補給をしっかりとる、降雪時は不要不急な外出は控えるなどして事故を起こさないように注意をしてください。

—救急患者の搬送先は、どのように決めるのでしょうか

傷病者の症状を救急隊が観察し、最も適した診療科目の受け入れ可能な医療機関を現場から近い順に、さらに「かかりつけ医」も考慮しながら、より傷病者に適した医療機関を選定しています。

—受け入れ側の病院にお願いしたいことはありますか。

救急隊が受け入れを要請するときは、傷病者に適した医療機関と判断して電話しており、名古屋市は1回目の電話連絡での受け入れが非常にスムーズにしています。場合によっては、病床が空いていない、他の急患を対応中で受け入れが難しい場合もあると思いますが、地域に密着した病院を希望されるケースが多いので、できる限りのご協力をお願いいたします。

—救命活動以外にもさまざまな活動をされているとか。

はい。名古屋市消防局では救急講習、各種イベントなどを通じて、AEDを用いた心肺蘇生法の実演、救急車の適性利用に対する広報活動などを行っています。より多くの市民の皆さまが救命に対して協力していただける社会を目指しています。心肺蘇生法を学ぶことで「いざ」というとき、だれもが応急手当を行うことができれば、傷病者の救命率の向上につながります。私たち救急隊も安全、確実、迅速に救急現場に到着し、救命活動を実施します。市民の皆さまのご協力をお願いします。



—最後に、山口病院へメッセージをお願いします。

地域の中核病院である山口病院とより一層、連携を深め、それぞれの立場や分野で協力して「ありがとう」と感謝の言葉をかけていただけるよう努力してまいります。今後も、市民・区民のニーズに応え、一人でも多くの命を救えるよう救急隊員のレベルアップと研鑽に励んでまいりますので、技術向上へのご支援ご協力をお願いします。

—ありがとうございました。



名古屋市南消防署

名古屋市南区桜本町24番地
TEL.052-825-0119

地域医療にクローズアップ

津田医院

医師同士のつながりが深いほど、医療連携はいっそう充実します。

—山口病院との連携はいつ頃からですか？

1988年の開院からです。理事長や院長とは家族ぐるみの付き合いがあり、学生の頃からかわいがっていただきました。研修医時代は当直のお手伝いなどもしていましたが、現在は腰やひざの整形外科疾患や、MRI、CT検査が必要な患者さまを紹介しています。特に嘱託医をしている老人ホームでは緊急時の受け入れ先として頼りにしています。

—診察で大切にしていることを教えてください。

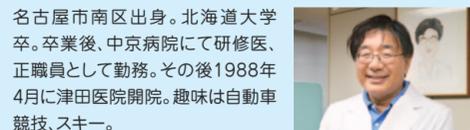
患者さまは身体の変調や苦痛を治したいと願って来院されます。たとえ軽症であっても、痛みが人と比べられないからこそ不安は募るものです。その気持ちを尊重して的確な治療をすることで、患者さまに「この病院に来てよかった」と思ってもらえる医院を目指しています。



津田医院
名古屋市南区道徳通2丁目20-2
TEL.052-691-3662
診療科目：内科、小児科、
外科、皮膚科

—地域医療についてメッセージをお願いします。

私自身、中京病院の先生方や、山口病院で理事長に教えていただいた多くのことが今に役立っています。医師同士のつながりが深い南区だからこそ、お互いに成長しあうことで、地域の皆さまに質の高い医療を届けたいと思います。
(院長 津田 憲一 先生)



名古屋市南区出身。北海道大学卒。卒業後、中京病院にて研修医、正職員として勤務。その後1988年4月に津田医院開院。趣味は自動車競技、スキー。

今号の表紙

場所：夢かけ風鈴／愛知県豊田市

2003年からはじまった豊田市小渡町一帯(旭地区)の「夢かけ風鈴」。矢作川の涼しい川風を体感してもらおうと、商店や民家の軒先に華やかな風鈴が飾られ、涼しげな音色が楽しめます。



理念 家族を想う気持ちを大切にしたい

基本方針

1. 患者さま本位の医療

…患者さまに対して家族や大切な人を想う気持ちを持って接するよう心がけます。

2. 地域への貢献

…24時間体制で地域住民に対して安心できる医療を提供できるよう努力します。

3. 向上心と信頼関係

…私たち職員は、常に向上心を持ち、お互いに尊敬し、信頼できる関係でありたいと思います。

■診療科目

一般診療 整形外科、内科、外科、消化器科、脳神経外科、リウマチ科、リハビリテーション科、皮膚泌尿器科、肛門科、放射線科、麻酔科
特殊診療 CPAP(睡眠時無呼吸症候群治療)、AGA(男性型脱毛症)在宅酸素療法、禁煙治療、ED(勃起障害治療)

※訪問診療 病状などにより、通院が困難な方の家をお訪ねします。

■病床数 60床(うち地域包括ケア病床 12床)

■診療日

	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:00	●	●	●	●	●	●
午後 4:00~ 6:00	●	●	●	●	●	×

休診日/日曜日・祝日・土曜日午後
※救急・ケガ等の場合はいつでも診療いたします(24時間体制)

医療法人 山和会 山口病院

〒457-0836 名古屋市南区加福本通3-28

TEL 052-611-6561(代) FAX 052-613-0333

名鉄：「大江駅」下車、南へ150m
市バス：新瑞橋13系統(左回り)／新瑞橋14系統「港東通」下車 神宮15系統「大江駅前」下車

日本医療機能評価機構認定病院
当院では、医療の質向上の取り組みとして、財団法人日本医療機能評価機構による審査を受け、平成22年4月2日付で認定されました。
※平成27年4月2日更新



<http://www.yamaguchi-hp.jp>

ケータイ・スマートフォンサイトもご覧ください



やまぐち

患者さまと病院をつなぐ広報誌

2015 Summer

あしたの医療+介護を考える ③

高齢化によって変わる「救急医療」のあり方。

●地域医療にクローズアップ【津田医院】



高齢化によって変わる「救急医療」のあり方。

開業時から「24時間365日、救急患者を診る」をモットーに年間約3,000名の救急患者を受け入れている山口病院。自らも救急医療に立ち会う院長にお話をお伺いしました。



医療法人 山和会 山口病院 院長 山口 賢司

「患者さまには日曜も祝日もない。24時間365日すべて受け入れる」

—院長自ら救急医療に携わっていると伺いました。

研修医の頃から急性期病院にお世話になり、ずっと救急医療に携わってきました。父（理事長）が「患者さまには日曜も祝日もない。いつ症状が出ても、どんな患者さまであっても、すべて受け入れる」という信念を貫いてきたように、私も救急医療は当院の要と考えています。

何人もの医師で体制を組んでいますが、骨折など整形外科に関する患者さまが搬送されたときは、私がかけつけ

ます。ですから休みはなかなか取れません。土曜日は外来がありますし、日曜日は病棟の患者さまを診て回っています。先日、職員たちと1泊2日の慰安旅行に出かけたのが、私にとって3年ぶりの休みでした。

—今までで印象に残っていることはありますか？

いろいろありすぎて難しい質問ですね（笑）。腰痛で運ばれてきた高齢女性の方の例をひとつお話ししましょう。腰のレントゲンを撮っても異常はなかったのですが、様子を見て「ただごとではない」と判断し、直ちに総合病院へ搬送しました。結果、腹部の動脈瘤の解離が見つかり命をとりとめました。救急の場合、検査データだけに頼らず、“重症感”という視診による一瞬の判断が生命を左右することを実感しました。

●平成26年 診療科目別救急受診患者数

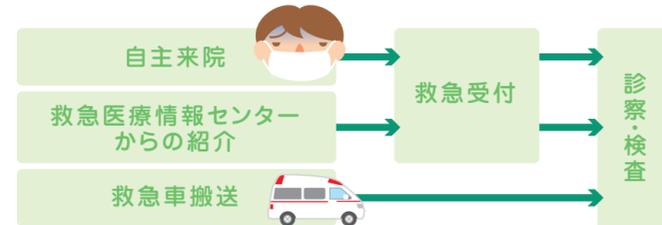
脳神経外科 36人		消化器科 98人	
整形外科 984人	外科 923人	内科 597人	その他 282人

救急搬送患者を含めた救急外来患者数は2,920人。外科系(1,943人)が全体の67%を占める。

救急のご案内

山口病院では、外科系医師1名と救急スタッフ2名が常駐し、診療時間外も24時間365日体制で救急患者さまに対応しています。

●救急受付から診察までの流れ



診療時間外にご来院されたら

正面玄関のインターホンを押し、お名前と希望の診療科をお伝えください。



受診するには ☎052-611-6561 までお電話ください

在宅の医療・介護が増えるなか、サポート体制も強化

—救急搬送患者について最近の変化はありますか。

高齢化によって認知症の方の徘徊・転倒などが増えました。搬送されてきた患者さまの約3割は入院となりますが、環境が変わって認知症状が悪化するケースも見られますね。また、景気が良くなると、工場などでの労災事故や交通外傷も増える傾向にあります。

最近では総合病院などでも救急医療に力を入れるようになり、受け入れ施設は充実しているものの、酩酊状態に陥っている人や精神病を合併している人など、受け入れを断られてしまうケースもあります。でも当院は極力拒否をしません。いつの時代も、患者さまにとって「最終の砦」でありたいと願って、救急医療に取り組んでいます。

—国は2025年には病床数を最大20万削減する方針を打ち出しましたが、救急医療への影響はありますか。

いっそう高齢化が進むなかで、医療を必要とする方が増える一方、病床数が減るということは、それだけ在宅患者さまが増えるということ。つまり、急変時の受け入れ体制がますます重要になるでしょう。

こうした変化に対して名古屋市では「在宅医療・介護連携推進事業」を本格的に10月からスタートさせます。訪問診療など在宅での医療や看護を地域ぐるみで充実させていこうというもので、当院も協力を惜しまないつもりで



す。また、在宅介護をしているご家族の負担を軽くするため、患者さまを一時期お預かりする「レスパイト入院※」にも対応していく考えです。

※神経難病患者や高齢のがん患者など、医学的管理や処置を在宅で受けている患者を対象に医療保険で入院を受け入れる制度。

24時間365日、どんな患者さまも受け入れる。それを実行するのはスタッフや医師の皆さんの協力あってのこと。今後、ますます重要となる救急医療の一翼を担い、地域を見守る山口病院であり続けてほしいと思います。

Profile

医療法人 山和会 山口病院 院長 山口 賢司

愛知県立尾張病院（現愛知県立循環器呼吸器病センター）などを経て、山口病院に入職。緊急整形外科手術を含めて年間約150例の手術を行う。日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会スポーツ認定医、日本整形外科学会リウマチ認定医、日本医師会認定産業医。

私とやまぐち

「患者さまを家族のように思って接する」山口病院の理念は私のポリシーそのものです。

以前勤めていた病院がクリニックに変わることになり、連携先である山口病院に入職させていただきました。入職する前から、山口病院はしっかりとした理念のある病院と感じていましたが、実際に入ってみると、理事長と院長のつくり出すアットホームな雰囲気、スタッフはもちろん患者さまにも届いている温かい病院だと実感しました。じつは私が看護師になる際、私の兄が「患者さんを家族のように思って接すれば、真心のこもった看護ができる」と教えてくれました。その後39年間、兄の言葉を胸に看護に取り組んできた私にとって、山口病院の理念は自分のポリシーそのものです。

縁あって、今年から外来師長の役目をいただきました。病棟とは違い、外来は患者さまと接する時間が短い分、看護の印象は強いもの。気持ちよく通院していただけるよう、これからも真心を込めた看護を心がけたいと思います。

Profile

外来師長 萬 千恵子（よろずちえこ） 長崎県の離島「平島」出身。南区の病院で32年間勤務した後、2008年山口病院に入職。病棟副師長を経て、15年に外来師長に就任。



名古屋市南消防署 救急隊の現場を拝見！ PHOTO GALLERY

救急隊員の皆さんが活動する現場を取材中、救急出動がかり、救急車は現場へと走り去っていきました。まさに「待ったなし」の現場を実感しました。



救急車のなかで救急救命士が迅速に処置を施します



救急車は「動く病院」。車内には最低限の医療設備が揃います



救急隊員の感染防止衣



24時間二交代で勤務する消防・救急隊員の皆さん



いざ、出動！



場合によっては、消防車も同時に救急出動します



すぐ出動できるようヘルメットとウエアは壁に掛けられています



消防車にすばやく乗り込みます



取材中、現場へと走り去る救急車

救急隊員から市民の皆さまへ

命を守る基本は「心停止の予防」が第一です。お子さまの場合は「不慮の事故（外傷・溺水・窒息）」の予防に努めてください。大人の場合は「急性心筋梗塞」「脳卒中」など急に意識がなくなったとき、胸が痛いとき、息が苦しいとき、頭が激しく痛むとき、身体の片側に力が入らないなど、突然死を起こすような重大な兆候に早く気づき、早期に救急要請し、医療機関で治療を開始することが重要です。このような症状があれば、すぐに「119番」してください。



南消防署の皆さん

広報「やまぐち」の取材に快く応じてくださった名古屋市南消防署の皆さん、本当にありがとうございました！